

# 市川町国際交流協会のあゆみ

1997～2007

## 10年のあゆみをふり返って



市川町国際交流協会 会長 山下 駿

私は、藤川仁前会長の後任として平成17年度より会長を務めています。「協会のあゆみ」の記事のとおり、平成9年から現在までにポートタウンゼント市を訪問した町民は91人、来町された市民は46人、訪米した生徒・先生は113人、来町された生徒・先生は116人となっています。現在までの会報や町の広報誌で報告されたように、訪米された生徒や町民の方々は日常生活と違った生活や文化を体験をされました。それは、来町された先方の方々も同じでしょう。特にホームステイをされた人々は、家族ぐるみの国籍を超えた人間同士の心のつながりを体験され

ておられます。国際交流の体験はその後どのような影響を与えているのでしょうか。

今日当協会は、会費と町の補助金、有志の方のご寄付とボランティアの奉仕やカンパによって運営を行っています。英会話教室も毎年新しい先生や生徒を迎えながら楽しく続けていますし、研修会も暗中模索を続けながら理事会で計画しています。このように、国際交流事業が継続して実施できるのも、ホームステイや留学にご協力くださったご家族の皆様方のご厚意、教育委員会や学校の諸先生方のご協力、役場職員の方々の裏方としての並々ならぬご苦労があってこそであると思います。最後になりましたが、関係各位に心からお礼を申し上げますとともに、今後も変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。

## 国際交流に参加しての感想と思い出



市川町国際交流協会 会長 堀田 孝夫

平成8年3月、当時の尾崎町長から『アメリカ合衆国ワシントン州ポートタウンゼント市』国際交流について議会に提案されました。それを受け、予算委員会を開催し議論を重ねて来ました。議員の意見として国際交流推進について反対はありませんでしたが「アメリカはあまりにも遠距離過ぎる、せめて隣国の韓国か中国を」との意見も複数ありましたが、最終的に全議員協議会を開き、再度理事者の説明を求め議論の末、若干予算修正されたうえ本会議で満場一致で採択することができました。それを受け私が議員の代表として、ポートタウンゼント市との

交流に向けての調査のため訪問することになりました。私にとって海外は初めての体験で少々不安でしたが、町職員を始め多くの皆さんの協力によりまして5月に町長を団長に総員6名で市川町を出発しました。シアトルで一泊して、翌日目的地ポートタウンゼント市に向けシアトル港からフェリーに乗船しました。その船上から見る絵さながらに広がる美しい風景は今でも私の脳裏に焼きついていきます。ポートタウンゼント市に到着、1800年代に建築された市役所玄関前でマッカロー市長や市幹部の皆さんの丁重な出迎えを受け感動しました。その夜は市長主催による歓迎会に招待され、自己紹介、両市町の内情についての説明を受けました。そしてその後会食しながら、これからの交流について実現に向け前向きに話し合いをしました。訪問2日目、当市で毎年開催されている「しゃくなげ祭り」を観覧、その夜私が一番心配していたホームステイでしたが私がホームシックにならないようホストファミリーの皆さんが色々気を使っただき、海岸の散歩・ゲーム・名画鑑賞と楽しく過ごすことができました。その温かい心、優しさに感動しました。また市立高校を訪問し、子どもたちとの懇談の中でほとんどの生徒が自分の将来進む道を考え勉強していることにも感心しました。私は、平成18年5月に2度目の訪問をしましたが、真の友好交流、友好親善の重要性を再確認しました。これからは、国際的に通用できる子どもたちを育成していくためにも町民の皆さんに国際交流事業にご理解いただきたいと思ひます。なお、国際交流をするにあたっては、言語、文化、習慣の違いがありますが、人間はみな平等、人と人、心と心のふれあいの尊さを肌で実感してこそ有意義なことであると思ひます。両市町の末永い友好交流が続きますよう切に願ひます。

# これまでの協会の歩み

市川町国際交流協会は、平成19年11月6日で10周年を迎えることとなりました。この10年間様々な事業を推進してまいりました。その主な事業の報告をご参加いただいた方々のメッセージとともにご紹介します。

年度	内 容
6	外国語指導助手としてサンドラさん来町
9	ポートタウンゼント市へ市川町調査団訪問 ポートタウンゼント市から初の訪問団来町 国際交流協会設立 第1回国際交流協会研修会を開催
10	ポートタウンゼント市へ初の親善訪問 両市町教育交流始まる
11	国際交流協会主催 英会話教室開催
14	ポートタウンゼント市と姉妹提携 国際交流協会5周年記念誌を発行



## ◆ 親善交流

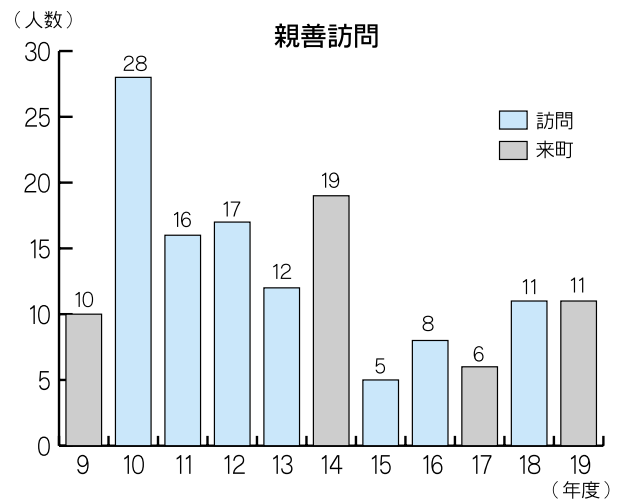
平成9年からアメリカ合衆国ポートタウンゼント市との交流を毎年実施しています。7回の訪問、4回の来町で、91人が訪問、46人が来町されました。また、平成14年に姉妹都市提携を結び、平成19年度で5周年を迎えました。今後もこのような草の根交流がより一層深まっていくことを願います。



橋本喜十郎さん

ポートタウンゼント市へは三度訪問しました。時期はいつも5月ですが、少し肌寒く感じました。海に面したゆるやかな丘陵地で木々が多く大変美しい町です。催し事としてメインのシャクナゲ祭りがあり、多くの子どもから老人まで様々な演出でパレードが2日間にわたり盛大に行われ、アメリカ各地から参加されます。市民の方々は気さくで優しく迎えてくれ、私たちをもてなしてくれます。あなたにも心に残る思い出づくりにぜひ一度訪問されてはいかがでしょうか。

えてくれ、私たちをもてなしてくれます。あなたにも心に残る思い出づくりにぜひ一度訪問されてはいかがでしょうか。



### アメリカ合衆国ポートタウンゼント市とは

アメリカ合衆国西海岸の最北端に位置する人口約8,000人の港町。四方を山と海に囲まれた静かなたたずまいのまちです。

毎年5月に開催されるシャクナゲまつりやジャズフェスティバル、さらにはオリンピック音楽祭やポートタウンゼント映画祭など様々な文化的な催しが行われ、その参加者は50,000人以上にも上ります。



【訪問】ポートタウンゼント市へ			
年度	月 日	人数	団 長
10	5 / 15 ~ 20	28	宮浦助役
11	5 / 13 ~ 19	16	則正収入役
12	5 / 18 ~ 24	17	堀田助役
13	5 / 17 ~ 23	12	松下町長
15	7 / 31 ~ 8 / 4	5	島田教育長
16	5 / 13 ~ 19	8	岩木収入役
18	5 / 19 ~ 25	11	高橋水道局長
【来町】市川町へ			
年度	月 日	人数	団 長
9	11 / 12 ~ 16	10	マッカロー市長
14	10 / 24 ~ 27	19	コーフ市長
17	10 / 27 ~ 31	6	ロビンソン市長
19	10 / 25 ~ 29	11	ワイマン友好協会会長

## ◆教育交流事業

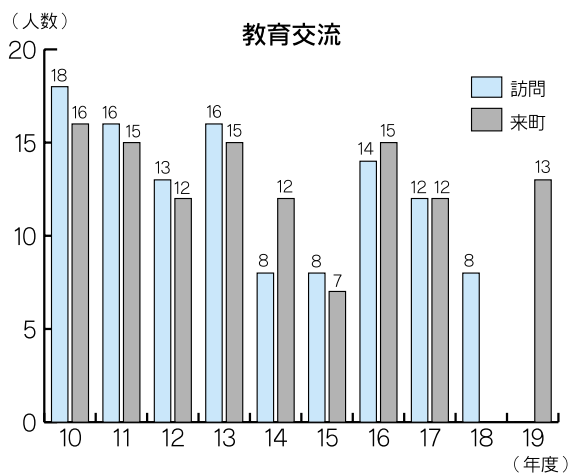
平成10年から毎年相互交流を行っています。ホームステイ等の体験を通して文化や習慣の違い等を学んでいます。10年間に、113人が訪問、116人の方が来町されました。10周年を迎えた今年、親善訪問された方々を含めOB・OG会を開催する予定です。学生であったみなさんにとってこの国際交流事業はその後の生活にどのような影響を与えたのでしょうか。



後藤 陽子さん  
(H16参加)

私は2004年度に行われた交換留学に参加しました。「何となくいい機会だから参加してみようかな。」程度の気持ちで参加を決めました。

参加した当時は英語力が未熟だったため、思うように会話が出来ず困ることが多かったですが、「伝えたい!」という気持ちがあればたとえ言葉が通じなくても相手に気持ちは伝わるんだということ学びました。前々から海外に興味があったのですが、交換留学がきっかけでその気持ちがさらに強く大きなものになりました。また、英語も好きになり、将来は英語を生かせる職場で働きたいと考えるようになりました。現在はその夢を実現させるために努力しています。



大崎 理佐さん  
(H19受入ホストファミリー)

ビジターの国について、最初に予備知識もなく安易な気持ちで受入をしたこと、反省しています。まず第一に言葉（英語を話すことができない）では苦勞しました。電子辞書やジェスチャーなどでコミュニケーションをはかりましたが、ビジター（タラ・フーテン）が必死に理解しようとしてくれることがこちらに伝わってきて申し訳ない気持ちでいっぱいでした。その次は食事です。タラちゃんはベジタリアンでした。だからといって本を読んだり勉強することもなく、ない知識で頑張ってみました。その中でも野菜の天ぷらを喜んで食べてくれました。今回このような貴重な体験が出来たことは私たち家族にとってはよい経験になりました。

8泊9日とても楽しかったし、別れの時は寂しく涙しました。また機会があれば参加させていただきたいと思います。



【訪問】ポートタウンセント市へ					
年度	月日	引率	中	高	計
10	8 / 17 ~ 24	3	10	5	18
11	"	3	10	3	16
12	"	3	8	2	13
13	8 / 16 ~ 23	3	12	1	16
14	8 / 19 ~ 26	2	1	5	8
15	8 / 18 ~ 25	2	2	4	8
16	7 / 23 ~ 30	2	8	4	14
17	7 / 28 ~ 8 / 4	2	9	1	12
18	8 / 6 ~ 13	2	6	0	8
【来町】市川町へ					
年度	月日	引率	中	高	計
10	11 / 2 ~ 11	2	0	14	16
11	11 / 15 ~ 24	2	0	13	15
12	11 / 11 ~ 20	3	0	9	12
13	11 / 9 ~ 18	5	0	10	15
14	11 / 10 ~ 16	3	0	9	12
15	11 / 10 ~ 15	4	0	3	7
16	8 / 10 ~ 16	4	0	11	15
17	7 / 12 ~ 18	2	0	10	12
19	10 / 4 ~ 15	2	7	4	13

# ◆ 研 修 会

平成9年から、さまざまな講習会や研修旅行を行ってきました。過去の研修会は以下のとおりです。

年度	月日	内容	年度	月日	内容
9	12 / 5	北京外国語大学教授 徐一平さんによる講演	15	3 / 31	見学ツアー（ひょうご国際プラザ、JICA兵庫国際センター他）
10	2 / 21	国際エメックスセンター常任理事 寺畑建雄さんによる講演	16	3 / 30	見学ツアー（淡路夢舞台（国際会議場）見学他）
11	3 / 19	5人の外国人と協会員とのトーク合戦	17	3 / 12	はりまハングル協会会長 山下義宣さんによる講演
12	3 / 18	滝野町国際交流協会理事 内橋恵子さんによる講演	18	2 / 10	青年海外協力隊兵庫県OB会副会長 梶田誠さんによる講演
13	3 / 10	篠山市ナマステ会代表 渡辺省悟さんによる講演	19	3 / 15	兵庫県国際交流員 朱春虹さんによる講演
14	3 / 29	茨城市国際親善都市協会 下村隆敏さんによる講演			

平成19年度市川町初の青年海外協力隊に参加されている岡本みかさん(下牛尾)のニジェール共和国からの現地リポートを皆さんにお届けします。岡本さんは、平成18年度に研修会講師にお招きした梶田誠さんに高校時代お世話になり、研修会チラシを見たことをきっかけに再度連絡をとられ、青年海外協力隊に参加されることとなりました。

## 『ニジェールという国をぜひ知って下さい』

岡本みかさん（下牛尾）

私は中学生の時、環境問題に興味を持ち『将来、世界の森を見てみたい、砂漠化が進行している所に行き、少しでも多くの樹木を増やしたい。』と思っていました。高校生になり、授業の中で「課題研究」があり「国際協力」について調べたとき、青年海外協力隊の存在を知りました。世界の状況を自分の目で確かめてみたい、自分に挑戦してみたい。その場所に行って自分に何が出来るのか、小さなことでもいい、樹木を通して「きっかけ作り」をしたいという思いがあり参加しました。



私は今、ニジェールのカレゴロ地域（首都から北に30km）に派遣されており、39カ村を対象にしたグループ活動をしています。グループメンバーは村落開発普及員、野菜、看護師、小学校教諭、社会学、植林の計6名です。今は村生活に慣れるのに時間をかけています。村は電気も水道もない環境で、家は村人と同じ「バンコ（砂と糞を混ぜたもの）」に住んでいます。私はコンバ村に住んでいるのですが、今は現地語（ザルマ語）を習得するため村人たちとの会話を楽しんでいます。ニジェール人は会話をするのが大好きで大人も子どもも村の中を歩いていると、「ゼイナブー（私の現地名）どこへいくの？ファーカーレイ（会話）しよう！こっちに来て！」とよく声をかけてくれます。村人みんながザルマ語の先生です。

ニジェールでは2005年から2009年にかけて、他国NGOが入り「砂漠化防止プロジェクト」を行っています。現在、私はその活動に参加しています。コンバ村でも近隣の村でグループを作り植林、生垣、ミレット（粟や稗の仲間）を植える場所を作ったりしています。どのようなことをしているのか現場に行き確認し、一緒に作業をしています。作業場所までの距離も徒歩1時間、砂地、灼熱の暑さの中の作業は厳しい状態です。また、他の村にも行き、村の生活環境やNGOの活動様子を見ています。村人の畑や果樹園を作っている人に話を聞いたり、ニジェールでの苗木生産方法を教えてもらったりしています。今はニジェール人からニジェールについてや、樹木・生活、色々なこと教えてもらっている、そんな期間です。また、住民のニーズを知る大切な時間だと考えています。

私はこれからも樹木に携わる仕事をしていきたいです。まだ、具体的な仕事については決めていませんが、この2年間のニジェールでの活動を含め考えていこうと思っています。また、2年間の活動や経験、アフリカについて沢山の人の知ってもらえるきっかけを作りたいです。この機会にニジェールという国を身近に感じてもらいたいです。市川町のみなさんにもぜひニジェールという国を知ってもらいたいなと思っています。



クルバクルバをかき混ぜている様子

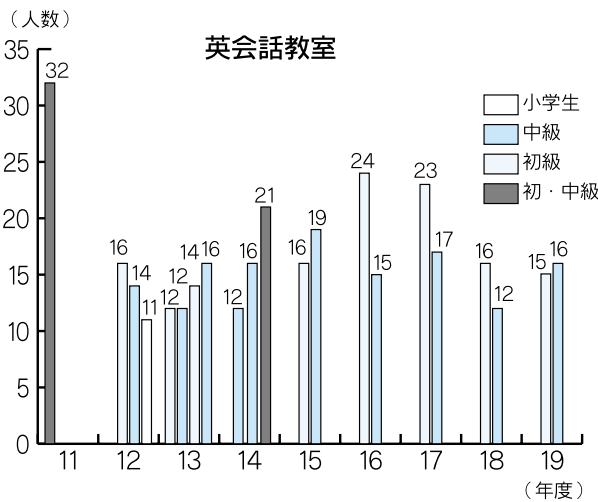
青年海外協力隊事業は、開発途上国で自分の持っている技術や経験を活かし、草の根レベルで共に触れ合い共同しながら、国づくりのために協力したいという意欲のある青年を派遣し、支援する事業で、現在78カ国、3,456名（本年9月末現在）の青年・シニアボランティアが活動しておられます。

# ◆英会話教室

平成11年にお越しいただいたロバーソン先生（姫路獨協大学並びに姫路学院女子短期大学勤務）をはじめ、市川町にALT（外国語指導助手）としておこし頂いた先生方11人を講師に迎え108回、321人の参加者で行いました。英会話はもちろん、クイズをしたり先生と一緒に料理を作ったりと盛りだくさんの内容でコミュニケーションをとりながら積極的に話しかけられるような意識づくりをしています。

## ケイティ・ハンドレア先生（H 15.11～H 17.6）

Hello! お久しぶりです。二年間市川町で英語を教えていたケイティです。皆さん、How are you? 今でも英語の能力向上に頑張っておられますか？私は、二年間英会話教室で教えさせていただいて、本当に嬉しかったです。なぜなら、たくさんの素敵な人と出会うことが出来たからです。皆さんはご存じかどうか分かりませんが、英会話教室では私たち教師も、皆さんのお陰で様々な新しいことを習ったり、楽しい思い出をたくさん作ったりすることが出来ました。国際交流協会が提供する英会話教室は非常に素晴らしいと思います！どうぞ、これからも英語の勉強頑張ってください！



年度	月日	回数	コース	講師	人数	年度	月日	回数	コース	講師	人数
11	11年4月～12月	34		ロバーソン先生	32	15	15年11月～16年6月	8	初級	アマンダ先生	16
12	12年4月～7月	10	初級	グレッチェン先生	16	16	16年11月～17年6月	8	中級	ケイティ先生	19
			小学生	グレッチェン先生	11				初級	ケイティ先生	24
13	13年4月～6月	8	初級	グレッチェン先生	12	17	17年11月～18年6月	8	中級	ジル先生	15
	13年11月～14年2月	8	中級	セーラ先生	12				初級	アミダ先生	23
14			14年4月～7月	8	初級	コニー先生	12	18	18年11月～19年6月	8	中級
	中級	アマンダ先生			16	初級	ケリー先生				16
14	14年11月～15年6月	8	初級	コニー先生	12	19	19年11月～20年6月	8	中級	メリー先生	12
			中級	アマンダ先生	16				初級	メリー先生	15
				コニー、アマンダ先生	21						

## ◆通訳ボランティア

当協会では、ポートタウンゼント市への親善訪問・中高生の教育交流・研修会の実施等事業実施の際にお手伝いいただく通訳ボランティアとして数名の方々に登録をいただいています。今回は、平成19年度親善訪問団にお手伝いいただきました栗田壮太さんの感想をご紹介します。通訳ボランティアを随時は募集しています。あなたの語学力を活かしてみませんか？



栗田 壮太さん  
(下瀬加)

先日、ポートタウンゼント市訪問団の市川町訪問に伴い、通訳ボランティアとして初めて市川町国際交流協会の行事に参加させていただき、楽しいひとときを過ごさせていただきました。限られた期間で出来るだけ多くを見ていただきたいというスケジュールの中、私が最も印象に残ったのは笠形寺訪問でした。あいにくの小雨交じりの天気で、笠形山の登山は取りやめになりましたが、笠形寺を訪問し、ご住職はじめ世話人の方々に温かくお迎えいただきました。小径を登って数年ぶりに開くというお堂に入り、ご住職から寺の由来や歴史、笠形神社との関係をご説明いただいていた時の事です。「昔ここには立派な釣り鐘が有りましたが、戦争で供出せざるを得なかった。」というお話をご住職が涙ながらにお話いただいた際に通訳で精一杯だった私が振り返ると、ポ

ータウンゼント市の皆さんも目にハンカチをあてながら聞き入っていたのです。その後は、仏教と神道の関係、過去の神仏習合、そして大戦中の経験など多くの質問と説明がなされ、知らず知らずに私も通訳を逸脱して話題の渦中に入り込んでしまいました。私自身、現在ドイツの製薬会社の社員であり、いわば毎日が国際交流のような環境にあります。インターネットの発達で遠く離れた国とも時差を気にせず情報のやりとりが出来るようになり、自然に恵まれた市川町で暮らしながら仕事が出来るという恩恵を実感しています。しかしその反面、情報が溢れている現代でも未だ世界各地で悲しむべき紛争が絶えません。宗教、人種、文化或いは政治の違いを超えた相互理解は、やはり人と人との直接の交流によって時間をかけて築き上げていくしかないことを実感しています。その意味で、次の世代を担う子供たち同士が相互訪問する機会を提供するこの姉妹都市事業は非常に良い取り組みだと思います。

## 国際交流 今と今から

平成19年度は来町された学生訪問団・親善訪問団が、町やホストファミリーに感謝して帰られました。

見たり聞いただけでなく、体験したり参加することが印象をより深めたと思えます。

獅子舞体験、笠形・岩戸神社・仏閣の参拝、グランドゴルフ交流会、ちぎり絵体験、銀の馬車道ウォーキングと仮装行列、相撲体験、村祭りに参加、焼き物体験など、地域の皆さんと交流する機会がたくさんありました。

相互訪問を始めて10周年にあたり、市川町からポ市を訪問した青少年が、その時に得た体験をどのように生かしたかを話し合ってもらいたい、この度OB・OG会を結成することになりました。

今からは、市川町民に、ポートタウンゼント市とはどのような町なのか、どんな歴史があるのか、イベントや生活、自然、農業、産業などを、ビデオや写真で紹介してはいかがでしょうか。

素晴らしい面だけでなく、困っていること（鹿に農作物を荒らされる）などを紹介することで、訪問

に関係のない方にも親近感を持ってもらいたいと思います。

紹介する機会は、毎年実施している集会や研修会（高齢者講座、人権研修会、ふれあいサロン、健康講座、各団体の会合）の時に10分～15分ほどにまとめて上映することもできます。

国際交流はポートタウンゼントだけでなく、近隣諸国についても理解する機会をつくり、より多くの方々に拡げていくよう、皆様のご協力、ご支援を賜りたいと思います。

柳瀬龍吉さん（市川町国際交流協会副会長）

